

『タイ旅行』



村田恒夫 (総務部)

年末年始の休みを利用して、12月28日～1月1日(3泊5日)で息子と一緒タイへ行ってきました。今回のツアー参加者は2名(1月末のバンコク国際空港の閉鎖等によりキャンセルがあった為)だったので2人に専用運転手及び専用添乗員が付きましました。

観光の初日は、バンコク市内観光で、チャーターボートにてチャオプラヤ川を水上遊覧、暁の寺、王宮エメラルド寺院、涅槃寺を観光してタイ式マッサージ(約2時間)を体験する。その後、ナイトバザールを見学。タイのバンコク(首都)は、名古屋の街に比べ、ずっと都会で、高層ビルが立ち並び、渋滞も半端ではありません。ちよとびつくり！2日目は、アユタヤ市内観光で、バンパイン離宮、ワットプラサート、ワットプラシーサンペト、ワットヤイチャイモンコンを観光し、又、象乗りも体験。3日目は、ダムナンサドアダム水上マーケットを観光後、BTSスカイトレインに乗車して、巨大ショッピングモールサイアムパラゴンへ。ここでは、水族館へ入場した(入場料 850バーツ：1バーツ 3円)。タイの平均月収が 10,000バーツだから、この水族館の入場料は異常に高い。実際に入場すると外国の観光客ばかりでした。食事は、日本人向け(少々高価な店)の店がほとんどだったので、本当に美味しく食べることが出来ました。但し、トムヤンクンは、辛い、酸っぱい、臭い、濃厚な味でちょっと辛いものがありました。

帰国は、1月1日の6時15分に中部国際空港(行きは6時間30分、帰りは5時間15分)に到着。到着後、即中部国際空港のスカイデッキ(7時間閉鎖)に向かい、初日の出を観る。タイが暑かっただけに、名古屋の寒さは厳しく、初日の出も綺麗だったけど、寒さには耐え切れず1分程度初日の出を覗いて退散する。今回のタイ旅行は、のんびり自由気ままに観光ができて、本当に楽しむことが出来ました。特に、タイ式マッサージは、最高でした。

『インターネット』



加藤雅昭 (営業部)

インターネットは本当にいろいろなことができるようになってきました。子供たちもこの前まではオンラインゲームで遊んでいたと思ったり、チャットをしだすし見逃したテレビ番組はすぐにネットで探して見ている。オンラインゲームではいろんな人とチャットしているので、現代は何があるか分からないので、自分が誰か確認できないようにはしなさいとは話しているが、ゲームで仲がいい子は結構年上の人が多いようだ。

You Tube等は隣の大国がアニメ等所有権を無視してネット上に過去の番組を流していたが、日本のメーカーからの取崩り強化依頼がいつの間にもあり、日本のアドレスは拒否されるようになってしまっている。言っている。今はネットタウンというのをはじめたそうで、私にも住人になってと言っている。なぜ？と聞くと紹介ポイントでアバター(仮想空間での自分の着替える服を買うそう)という事で私も登録してみました。見てみるとセカンドライフアメリカリンドンラボ社が開いている(バーチャル世界)のまねっこのようなものでした。また今日も何をしているのかと小学5年生の娘がパソコンを打っているのを見てみると、いつの間にかプロ立ち上げたようで、書き込みも返事を打っている。何を書いているのか見てみると、ちゃんと写真も載せている。まよまよにそれなりになっている。聞いてみると同じクラスの友達もブログを立ち上げており、結構アクセスがあるようです。また買い物をするときの基準はネットで単価を調べてそれに基いて買物をして、近頃はネット販売の価格よりも交渉したいで安くする電気店も出てきています。書き込みがあり、その通りに交渉してみると本当に安くなくなりました。

ネットをいかにうまく使用するかで、結構出費を押しえられたりできます。このように会ったことのない人とネット上で情報を共有したり遊んだり、また買い物したりして、だんだん直接人と会って話したり、遊ぶことが少なくなってしまうように感じます。それがいけないわけではないのですが、子供が外にも遊びに行かずずっとパソコンに向かうのもいかな物かと思えます。こんなことを思っている年寄りになったのかなとも思いますが、ネットはあくまでネットなので、うまく使いこなしてきてくれたらいいかなと感じています。といながら私の水泳マスターズチームの連絡はメールです。

『年末年始』



長崎 修 (特販部)

2007年の暮に(以前に波紋に掲載)除夜の鐘を突き、そして、2008年の暮にも除夜の鐘を突きに行きました。今年も本厄と言う事もあり、厄払いを兼ねて初詣に(岐阜のお千代保稲荷神社・愛知県稲沢市の国府宮神社)へ参拝に行ってきました。初詣に出かける際、次女が寝てしまい長女とお千代保稲荷神社へ行き、参拝(おみくじは吉ができました)と夜食に串カツ等食べて帰宅。帰宅後長女が寝て間もなく次女が起きてきて「今から行こう。碧(長女)ばかりずるい」と言われ、さすがに2往復は辛い為、近場の国府宮神社に参拝に。深夜2時にも関わらず露店もあり、ここでも夜食を一緒に。一度に行けば良かったのですが、親の都合で寝た子を起すことが出来ず忙しい年明けとなりました。この事をお正月に実家に里帰りした際に「厄年だから休みの度に参拝に行き厄を落してこい」と言われ、その他にも近所の人から「裸祭り」にも参加して厄払いをした方がいいんじゃないかと勧められ、「裸祭りは2月7日の土曜日だから参加可能だね」と確認される。1月末に町内の総会がある為、その時に詳しい情報がある。いやいや……脱走したいけど厄年だから……。厄払いは参拝だけで終わりたい心境です。

新 入 社 員 紹 介

皆さん明けましておめでとう御座います。昨年10月14日に入社しました「小原龍一(おばらりゅういち)」です。幼い頃に残留孤児である祖母と日本の地に来ました。日系三世です。今年で27歳を迎える一児の父です。長男・祥太(しょうた)は昨年の寒中1月に生まれ、立会出産した際の大変さや感動がまだ記憶に新しいです。子供の成長は非常に早いもので、今では一人で歩けるまでになり、仕事から帰ると毎日違った表情で出迎えてくれます。子供での不安は、しつけ方法・教育など、どの様にしていけば良いのか時々不安になります。

家内を紹介させていただきます。家内とは大学時代の同級生、それまで学生結婚が認められなかった中国_法(中国憲法)にも2006年に転機が訪れました。婚姻法が改正され、学生結婚も認められる様になったのです。これを機に私たちは学生時代に籍を入れました。



小原龍一

森松に入社して3か月が経ち、配送部門での研修を終え、今後は製造部門の研修を行う予定です。配送部門では得意先の特徴及び場所、一番重要な事は会社の顔として訪問する、末端業務としての責任感でした。今後、製造部門での研修が始まります。製品の特徴・知識をしっかり研修していき、一日も早く会社に貢献していけるように努力します。皆さん宜しくお願い致します。

『VOICE』



伊藤雅典 (製造部)

1月と言えば、番組の編成期でもあり、いろんな新番組の始まる時期です。そんなことで先日たまたま月9(ラジレレ)・月曜日(午後9時)ヴォイス(命なき者の声)というドラマの第1回を見ました。内容的には、通り魔殺人事件など人の命を奪う事に対する恐怖心やためらいがなくなってしまうたかのような過激な事件が多発している現代社会のなかで、法医学学生(瑛太)が「死」というものからのメッセージを汲み取り、生きていく意味や命の重みを引き出そうとするヒューマンドラマです。

月9と言えば、恋愛・連続ドラマが多いですが今回はそんな感じでは無いようです。また、話の流れとして大きな流れはあるものの、毎回完結していくような感じなので見れない時があっても安心です。第1話を観て法医学部の教授が学生達の前で、死者の体はその人が最後に伝えたかった言葉を明確に語りかける、その法医学者にしか聞けない言葉や声をつなぐのが自分たちの仕事なのだと思えるシーンがあるのですが、その時あれ！と思いました。というのは、アメリカドラマにも良く似た番組があるのです。「ボーンズ」骨体が発見されると、骨を元に法人類学者がFBIと共に事件を解決していくというドラマです。ちなみに法人類学者とは遺跡から発掘されたミイラの鑑定などをやる人です。両者とも、死んでしまった人のことを扱っていますが、最近日米問わず言える事は医療関係のドラマがヒットしているということだと思います。ただ、全て根底に流れているものは、人の命の尊さだと思えます。ゲームやマンガなど架空の世界で「死」というものに慣れてしまっただけに訴えかけているような気がします。